

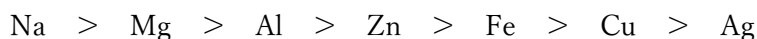
<結果から分かること>

- ・2種類の金属板の組み合わせによって、電圧や極が決まるため、モーターの回り方（速さや向き）にちがいが生じる。

発展 イオン化傾向

塩酸にマグネシウム (Mg), アルミニウム (Al), 銅 (Cu) を入れて反応のようすを比較すると、マグネシウムとアルミニウムは水素を発生してとける（イオンになる）が、銅はとけず、イオンにならない。イオンへのなりやすさは金属によって差がある。イオンへのなりやすさをイオン化傾向という。

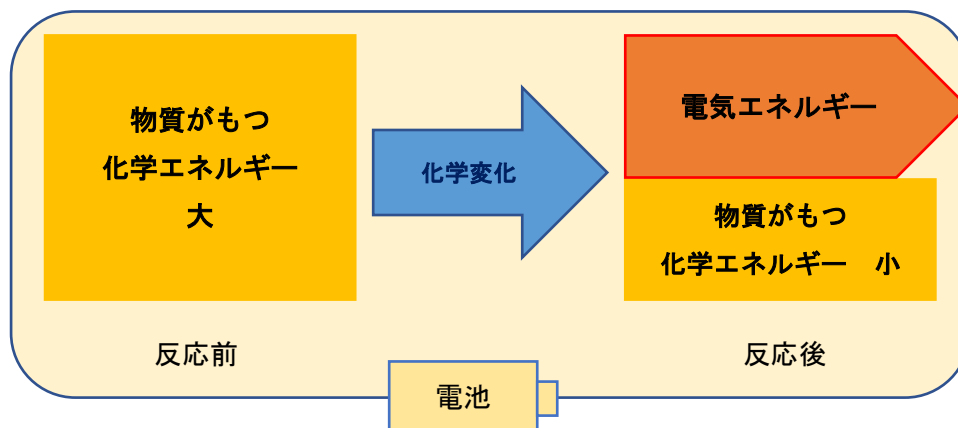
イオン化傾向が大きい ← → 小さい



2種類の金属板を使ったとき、イオン化傾向の大きい金属が－極になる。金属と金属との間に生じる電圧は、2種類の金属板のイオン化傾向の差が大きいほど、大きくなる。



<電気エネルギーへの変換>



電池は、金属の化学変化を利用して、電気エネルギーをとり出している。

<まとめ>

- ・電池は、物質がもつ（ ）エネルギーを（ ）により、（ ）エネルギーに変換する。